

令和5年度 後川内小学校 自己評価書及び学校関係者評価書

学校経営ビジョン： 「高め合い、支え合い、一日一歩前進する学校」を目指す。

評価基準 4～期待以上（90%以上） 3～ほぼ期待通り（70～90%） 2～やや期待を下回る（50～70%） 1～改善を要する（50%以下）

	評価項目	評価指標	具体的な数値目標	方策・手立てについての反省	評定		学校関係者評価コメント
					自己	学校関係者	
Ⅰ 学力の向上	1 授業の工夫改善 ・ICT活用 ・ユニバーサルデザイン	○ ICTの有効活用等による「分かる」まで教え「できる」まで見届ける授業改善を行う。	○ ユニバーサルデザインを意識し、学校評価アンケートの児童調査において、授業が「分かる」「できた」と答える児童を90%以上にする。	○ 主体的な学びを支える授業での発問の工夫を主題研究の柱とし、全職員で取り組んだことにより、児童が意見交流を行う授業スタイルに変わりつつある。 ○ 授業が「わかる」「できた」と感じる児童は100%であるが、ユニバーサルデザインを主眼とした更なる授業力を高める必要がある。	3	3	○ 学校の雰囲気がよく、静かな中に落ち着いて学習している様子が見えかけた。
	2 各種学力テストに向けた指導体制の確立	○ 学力テストの過去問題をもとに、教師自身が出題の傾向をつかむ。	○ 各種学力テストで、県・全国平均以上の正答率を目指す。	○ 過去問を解き、問題の傾向を共有し、日常の授業にも活かしたため、ほぼ数値目標に到達した。学年により偏りがあることが課題。基礎的・基本的内容の定着を、2～3月に重点的に補う。	2		
	3 読書習慣の育成	○ 学校司書や家庭と連携し、読書習慣を育成する。	○ 児童の読書目標達成 80%以上を目指す。	○ 昨年度の実績と学年の目標に基づいた児童一人一人の読書目標設定の結果80%以上であった。	3		
Ⅱ 心の教育・生徒指導の充実	1 基本的な行動様式の継続指導と規範意識の高揚	○ 日々の生活における基本的な行動様式が日常的にできるように指導を継続する。	○ 学校評価アンケートの児童調査において、「あいさつ」「廊下歩行」「靴並べ」「清掃ができる」と答える児童80%以上を目指す。	○ 「あいさつ」「廊下歩行」「靴並べ」「清掃」を重点的に、日常指導を行ってきた。児童の評価は93%達成であるが、あいさつについては、町モニターの指摘もあり、目標に達しているとはいえない。	2	3.5	○ あいさつがどうしてもできない。恥ずかしさもあるためなのか。見守りや先生の前ではできるが、友達同士や外部の人には消極的に感じる。 ○ 自分たちもあいさつができたときに褒めてあげると「あいさつをしよう」という気持ちになれるのではないかな。 ○ 家庭内でのあいさつはできているのか。保護者アンケートからしていないところもあるのではないかな、保護者の意識を高めていく必要がある。 ○ 登校班の班長など、高学年がお手本を示せば、低学年も行うようになるので、低学年のうちからあいさつの習慣化が図れるとよい。
	2 児童の主体性の向上	○ ピア・サポート、スクールワイドPBSを取り入れ、児童が主体となる場や機会を増やし、主体性を育む。	○ 学校評価アンケートの児童調査において、「行事や集会活動に進んで取り組んだ。」と答える児童を80%以上にする。	○ 年間を通した異学年活動（うしろキッズ）や学校行事（小中合同運動会、持久走大会）や集会活動等で、児童が自ら考え、主体的に行動できる機会を増やした。自主性・自治力を高める指導の工夫が必要である。	3		
	3 児童理解の推進	○ 「育みの会」の充実による児童理解を深め、いじめ・不登校を未然に防ぐ。	○ いじめ・不登校解消率100%を目指す。	○ 「育みの会（月1）」「プチ育みの会（週1）」での情報の共有による児童理解を充実させる。いじめ・不登校の解消率は100%であった。	4		
Ⅲ 健康安全の推進・体力向上	1 体力向上プランの実践と運動量確保	○ 体力向上プランに基づいた実践及び個に応じた指導により、体力アップを目指す。	○ 体力テストのDE段階 10%以下を目指す。	○ 体力テストの結果から、体力向上プランを策定し、共通実践するとともに、体育学習における運動量を確保してきた結果、D・E評価の児童割合は15%であった。運動家習慣化している児童とそうでない児童の体力差が見られる。	2	3.5	○ 体力については個人差がある。 ○ う歯治療率達成が低いため、保護者に歯科医連れていくよう声掛けが必要である。
	2 危機管理能力の育成	○ 危機に関して、児童が自ら考えて行動できる力を育てる。	○ 危機に関して、自分で命を守る行動ができたと答える児童90パーセント以上を目指す。	○ 防災教育の充実（避難訓練・環境教育）の見直しを図り、教師が見守る中で、児童自らが判断して行動できる訓練等を仕組む。→達成率95%	4		
	3 保健・食育の推進	○ 個に応じた保健指導のもとに自己の健康を守る意識と実践力を高める。 ○ 日々の給食指導や食に関する指導を推進する。	○ う歯治療率100パーセント、欠席児童ゼロ50日を目指す。 ○ 弁当の日に取り組む児童 100%を目指す。	○ 各種診断結果を基に個別指導を行い、児童自身の健康を守る意識を高める。→齲歯達成率50% ○ 給食指導と弁当の日を継続し、「食」への関心を高める児童を増やす。→達成率75%	2		
Ⅳ 「信頼される学校」づくり	1 コンプライアンス対策の充実	○ コンプライアンスに関する研修と指導を継続し、法令違反等の不祥事ゼロを目指す。	○ ハラスメントを含む法令違反等の不祥事案ゼロを目指す。	○ 具体的事案や啓発資料を活用した指導を継続し、本校の重点事項についての研修・日常的な啓発を実施することで、職員による不祥事ゼロへの意識向上と維持を図った結果、不祥事はゼロであった。	4	4	○ 地区の行事「後川内まつり」を今後どうしていくか。統廃合により児童生徒がいなくなることより、学校があつてこそ祭りの運営ができた部分もあるので、この2年後を見据え、見通しがもてるとよい。
	2 地域の力や特色を生かした取組の推進	○ 中学校・保護者・地域との連携を図り、地域の力や特色を生かした取組を推進する。	○ 小中合同の行事、中学校・保育所との活動、地域の行事へ関わろうとする児童の育成を目指す。	○ 小中合同の運動会・持久走大会、新入学児と小学校1・2年生との交流会等を計画通り実施することができた。	4		

